

ヒロシマ

HIROSHIMA



2006(上)



《目次》

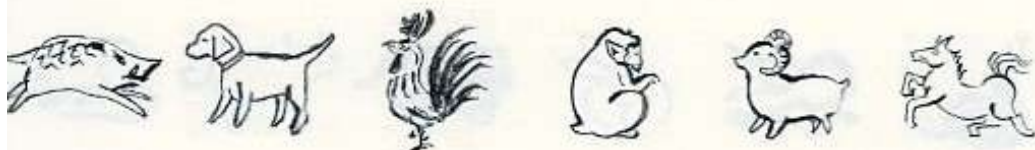
城仙泰一郎	……	老いたツバメ	……	1
吉波 曾死	……	幸せな奇遇	……	2
千葉 佳子	……	私の被爆記(一)	……	3
小笠 邦久	……	そば考(その八)	……	4
碓井 静照	……	日本古代史を思う(15)吉野ヶ里遺跡	……	5
山根 興哉	……	芸術談義	……	6
寺尾 邦昭	……	桜の絨毯	……	7
梶川 咸子	……	坂田藤十郎と政岡	……	8
吉村 馬洗	……	三滝寺と大木惇夫	……	9
平塩 清種	……	人生の抱懐	……	10
正木 嗣鵬	……	中国渡来人の書(一)隠元来朝	……	11
有地 成光	……	優雅な仕事	……	12
山本 節子	……	陰らずてあれ	……	13
田中 博	……	アサクサノリ	……	14
保手濱神龍	……	梅を丁谷に訪う	……	15
片柳 寛	……	田中一郎氏を悼む	……	16
上田みどり	……	「けじめのないこと」を考える	……	17
高橋 昭博	……	戦艦大和と靖国	……	18
花井 隆爾	……	脳を癒し、リラックス	……	19
今田 鷗掉	……	灘江舟游	……	20
井岡 裕昭	……	古墳掘り	……	21
新川 貞之	……	尊い一円募金	……	22
大谷 育平	……	芭沙ミヤオ族の「笑み」	……	23
熊田 幸子	……	春 寒	……	24



新本	稔	やすらぎ	25
龜井	一夫	一病息災	26
新田	和雄	共棲の食卓	27
井尾	義信	地図が好き	28
菅原	京子	ナポレオンのカメラ	29
田上公一郎		梅幻寺月光の庭(その五)	30
伊勢	真介	我が街 広島(四)	31
長谷川	是求	戦争と平和	32
垣内	稔	今、残すべき遺産・口承文芸Ⅱ口頭伝承その(1)	33
高橋	昭三	連句へのお誘い(17)	34
三上寿磨子		再びの大韓民国	35
小島	哲	県民性あれこれ(その一)	36
渡辺	玲子	鴉の会・周辺記	37
川村	毅	わが友ラッキ	38
有馬	康之	山本周五郎の小説も演歌	39
豊嶋	睦	トリノに舞う―美しく虚心に―	40
岩佐すみえ		アスコーナ	41
木村	進匡	犬馬難鬼魅易	42
袁	葉	血と詩	43
赤松	和彦	椿あれこれ	44
大下	徳也	「皇太子殿下廣島縣行啓録」(復刻版)の刊行を終えて	45
上田由美子		アトリエ	46
高橋	博暢	中央ヨーロッパ見聞録	47
大和喜久男		「笑い」の研究(4)	48
中下	毬子	風 船	49
森田	昌樹	犬の出産	50



久保田秀男	父の墓「夢」	51
亀井 章	見下ろせば、危うし	52
今泉ただし	包装紙	53
北川 建次	被爆柳の物語	54
吉村 良哉	あの時代	55
小杉 篤雄	数字の文語文化	56
福谷 昭二	短詩による頌詩の構成詩	57
竹田 朝子	かみつき亀	58
井上 哲一	クスコの町のインカとスペイン	59
小野 文孝	RX車の女	60
土屋 孝子	母のこと(その七) 刻まれた歌	61
片山 義弘	詩人・助信保と火皿	62
務中 昌己	秋篠宮殿下とニワトリ	63
川堀 耕平	敦煌・莫高窟	64
大谷美奈子	ユニタール広島事務所	65
田中 康夫	旅ゆけば(4) おいでませ萩の初春	66
舛井 寛一	手帳(三)	67
佐藤 蘭花	雨あがり	68
谷本 直隆	稲むらの火	69
世木田寛子	たれゆえ草(誰故草)	70
松島 睦	緑の風と冬芽への愛	71
夏目 康文	二年目に届いた「盆」	72
平岡 豊恵	教師冥利につきる	73
天瀬 裕康	黒鉄繭	74
足立 柳子	ジャザサイズの夢	75
久村 敬夫	「夢千代」の里	76



由田千鶴子…… 鞘・町並みひな祭

水田 稔衛…… 非戦の伝言

板倉 昭子…… 書聖・日下部鳴鶴

寛 義之…… 秋の七草

広島ペンクラブ規約

編集人記

○創生俳句会

○山陽吟社

○新本クリラク

○西日本日中旅行社

○堀川病院

○広島経済大学

○高場ユータウン病院

○長崎病院

○木村神経内科クリニック

○平安堂梅坪

○介護老人保健施設ゆうゆう

○横田安楽堂

■表紙題字／大木茂

■目次カット／川堀耕平

■扉／赤松和彦

### モンマルトル

福井芳郎 (ふくいよしろう)

昭和三十六年七月制作 一四〇×一〇〇 由田千鶴子氏所蔵

明治四十五年(一九一三)三月十一日、広島市の場町に生まれる。昭和六年大阪美術学校卒。西観音町にて被爆。昭和四十四年「ヒロシマの怒り」で藤山愛一郎賞。悲惨な現実を自由闊達な作風により「ひろしまの悲しみ」「女座像」で注目を浴び、山路商なき広島画壇を浜崎左髪子、野村守夫らとリードする。直感的にものを捉え、印象的な明るい色彩で表現する軽妙洒脱な画風。昭和四十九年(一九七四)十一月十三日原爆症が悪化、急性肝炎で逝去、享年七十三歳。

表紙

創生俳句会	85
山陽吟社	86
新本クリラク	87
西日本日中旅行社	88
堀川病院	85
広島経済大学	86
高場ユータウン病院	87
長崎病院	88
木村神経内科クリニック	85
平安堂梅坪	86
介護老人保健施設ゆうゆう	87
横田安楽堂	88
由田千鶴子…… 鞘・町並みひな祭	77
水田 稔衛…… 非戦の伝言	78
板倉 昭子…… 書聖・日下部鳴鶴	79
寛 義之…… 秋の七草	80
広島ペンクラブ規約	81
編集人記	83